

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101686		
法人名	株式会社のじり苑		
事業所名	グループホームのじり苑		
所在地	〒030-0122 青森県青森市野尻字今田58番地1		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑の概要は法人のホームページやブログの投稿、インターネットでの求人広告等で県内外の方達にも見ていただくことができる。地域交流を図ることを目的にあいさつ運動を実施したり、町内のゴミ拾いに参加、避難訓練時地域消防団、町会役員の参加依頼に努めている。学生に認知症の理解を促すことを目的に、職員は近隣の学校が主催する介護体験活動に参加している。利用者には、ねぶた鑑賞や花見、遠足等に参加していただくなど、季節感を味わいながら、生活にメリハリをもってもらえるように配慮している。また、常にその人らしい生活を送っていただけるよう、質の高いケアの提供を心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

青森市郊外に立地している。一般家庭を修築したユニットと新設ユニットで構成され、個性の異なる空間となっている。新設ユニットには重度化対応の入浴機器も設置され、重度化対応への前向きな取り組みがされている。近隣には短大・幼稚園・小学校等があり、積極的な地域交流が図られている。他グループホームや協力機関の特別養護老人ホームとの関係性も良好で、情報交換や研修会等を開催しケアの質の向上に向けた取り組みがされている。職員の外部研修参加・資格取得にも協力的で全体のケア提供におけるレベルアップへの貪欲な姿勢が伺える。ホーム内には楽しそうな外出行事等の写真が飾られ、自然に笑顔が出るようなホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、会議の前には理念の唱和を行い、職員全員が常に意識し業務にあたっている。	開設時からの理念を、地域密着型の意義をふまえたものに変更している。毎朝ユニットごとの申し送り時及びリーダー会議、職員会議においても話し合い、唱和し理念の共有を図りながらケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等に地域の方を招待し、小学校のあいさつ運動や町内のゴミ拾い等地域の方達と交流を図り、近隣のコンビニでの買い物を通して日常的に交流出来るように心がけている。	小学校の挨拶運動、町内会のごみ拾いに参加している。ホームの創立10周年祭には家族が出席し、近隣の施設や地域婦人部がホームを訪問している。、利用者と職員が買い物に出かけるなど地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣コンビニ、運送会社、地域住民に苑の行事、避難訓練への参加の声かけを行い、苑への理解や非常時等の協力お願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し御家族、包括、民生委員に参加して頂き、報告、様々な情報交換を行い地域の情報を得ている。	2ヶ月に1回開催し、会議には地域包括支援センター職員、民生委員、家族、利用者が出席している。利用者現状報告とともに地域及び外部評価への取り組みや、相互の意見交換をしており運営やサービスに活かす取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、相談、報告をしており協力関係を築くようにしている。	産休する看護師の代替職員の確保についての報告相談や医療連携機関からの往診等についても相談し、協力関係を図るべく積極的な取り組みがされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で、身体拘束に繋がらないか等を十分に話し合い、職員は常に身体拘束を意識して業務に取り組んでいる。夜間は防犯の為施錠をしている。	「身体拘束ゼロへの手引き」を活用したマニュアルを整備し、勉強会を開催したり、職員の理解を図っている。やむを得ず身体拘束に至った場合は様式に沿った経緯で記録に残し、ケアプランに記載し随時検討し早期解除に向けた取り組みがされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を開催、会議の際に話し合いをしている。日々の業務の中で職員同士が声掛けを行いながら、虐待に繋がらないかを意識して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を開催し職員の理解を深めている。制度を必要としている方には支援出来るように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っており、不安なことなどを確認している。また、いつでも相談対応できることを伝えている。利用者様や家族以外でも、見学者全てに施設の案内や説明をし納得していただけるまで行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、毎月「家族の声」という用紙を送付し、ご家族の意見・要望を確認している。	契約時に外部の機関にも意見や要望が表せることを説明している。また家族の面会時のほか、毎月の利用料の請求と一緒に「家族の声」という用紙を同封し家族の意見・要望を引き出し、運営に反映させる取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議を毎月設け、話し合いをしている。職員の意見は個人面談やEメールでのやり取りにより、すぐに検討できる体制が出来ている。	毎月リーダー会議を開催し、話し合いしている他、希望があれば代表と職員が個人面談出来る体制が整備されている。風除室や玄関のスロープ等環境問題改善の意見が出され、意見の反映がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員との面談の機会を設け個々の要望や不安を確認し職員の意見を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験等に合わせた外部研修に参加している。また社内研修も定期的に行っている。参加できない職員にも資料、DVDを提供し、都度報告書の提出を求めることでトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、各研修に参加している。また近くのグループホームでの行事に参加することで、職員同士が話し合いをする機会を設けることが出来ている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学をしていただいたり、面談をすることにより、不安の解消に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設見学をしていただいたり、面談をすることにより、不安の解消に配慮している。また常に相談が出来ることを伝え、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に十分なアセスメントを行っている。本人の表情や仕草を見極め、その思いを汲み取るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることを見極め、職員は一緒に行動するようにしている。信頼関係を大切にし、家族のような気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に生活歴を聞き、情報の共有化を図っている。また、各種行事への参加を呼びかけ、共に利用者様を支えていく関係を築いている。通院等の状況を連絡することで、ご家族が利用者様を把握出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた美容院や商店などを利用し、関係が途切れないようにしている。	利用者の希望により、これまで利用してきた美容院や商店に出かけ馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の情報を職員が共有することにより、トラブルを防いで孤立しないように配慮している。また、利用者様同士のコミュニケーションが円滑に出来るように職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できることを伝え、必要であれば家事援助代行サービスを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の言動や行動・表情を観察し、希望や意向の把握に努めている。また、職員同士の情報の共有化に努め、利用者様本位のケアを行うよう努めている。	利用者の日常の言動、行動、表情を観察し意向の把握に努めている他、センター方式の一部を取り入れ利用者の思い、意向を把握し、家族の協力も得ながら利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取った生活歴を参考に、生活環境の変化を最小限に抑えるよう努力している。また利用者様との日頃の会話からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に、利用者様の状況を把握し、細かくケースに記録し状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の会話等を通じて、利用者様やご家族の希望を聞いている。また、定期的に会議を開催し、介護計画を作成している。	日常生活を通して本人の意向、家族の要望をふまえ、リーダー会議、職員全体会議を開催し、介護計画を作成している。3ヶ月ごとのカンファレンス、モニタリング、状態変化維持のミニカンファレンスを開催し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や利用者様の情報交換ノートを職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望やADL(日常生活動作)の状態、家族の希望に合わせ(株)のじり苑の施設間での移動を視野にいれ、その時々ニーズに合わせた対応をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(コンビニ・民生委員ボランティア)を活用し、豊かな暮らしを出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	中部クリニック、協立病院と連携を図り、利用者様の状態に適した通院及び支援を行うよう支援している。月2回の往診有り。	本人や家族の希望によりかかりつけ医を受診している。また、連携している医療機関から月2回の往診があり、適切な医療を受ける事が出来ている。専門医の受診の際も職員が同行し、関係性が継続されるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者様の状況を報告し、一人ひとりの利用者様が適切な通院や処置の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに面会に行き情報交換や状態の把握が出来るようにしている。必要に応じて、医師との面談を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について事前のご家族様・医師・職員2名で話し合いを行い、方針を共有しチーム支援に取り組んでいる。	重度化した場合に関し、入居時に説明している。必要に応じて家族や、協力医療機関、かかりつけ医等と話し合いを行い、本人や家族の意向を重視し、個々の状況に応じた支援が出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時にすぐ対応出来るように連絡網を作成し応援できる体制を作り、利用者様の情報をファイル化しすぐに持ち出せるようにしている。消防での講習、社内研修などで学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。食料や水、防災グッズを確保している。	夜間と日中の火災を想定して年2回の避難訓練を実施している。訓練には消防団、町内会が参加し、近くの商店、運輸会社の協力を得られる体制となっており、非常時に備え、防災用品の確保がされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者様の人格を尊重し、プライバシーの確保をすることを意識し、業務にあたっている。また、気になる言動等がある場合は職員同士が声を掛け合い、ケアにあたっている。	職員は毎月の研修会で認知症の理解を深めており、ケアにあたる際は人格の尊重、プライバシーの保護に努めている。対応確認表をもとに1日のケア内容の振り返りがされ、積極的に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定を出来る様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位のケアを行うよう、職員は努力している。日頃のコミュニケーションから、利用者がどのようにその日を過ごしたいか引き出している。必要に応じて別ユニットの職員の協力を得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する衣類は利用者様に選択していただき、その都度、声掛けしをして整容の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を考慮し、一緒に準備している。利用者様一人ひとりの好みや嫌いなものを把握し、代替食の提供も行っている。季節感のある食材を利用する。	利用者一人ひとりの好み、嫌いなものを把握しており、季節感のある食材を利用者と職員が一緒に下ごしらえなどしている。個別に食形態の工夫もされており、利用者と職員が食事を介して会話がされ、楽しい時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を把握している。摂取量の足りない利用者様には、主治医に相談して高栄養剤を飲用していただくこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し、状態の観察を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を把握し、利用者様の表情や行動から排泄の予兆を察知し、誘導、介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、下剤で対応している。状況に応じて主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望があれば、いつでも入浴が出来ることを利用者様に伝えている。入浴介助は別のユニットと連携し対応している。	週2回の入浴日となっているが、希望があればいつでも入浴できる体制を整備している。機械浴もできるユニットと連携して対応している。入浴日以外及び希望者には足湯の支援もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員で利用者様の生活習慣を把握し、いつでも休んでいただけるような環境に整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を職員で把握し、服薬綴りをいつでも確認出来るようにしている。変更時は申し送りを徹底している。症状の変化があった場合は、すぐに主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を十分に把握し、役割意識をもって過ごしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事やドライブを行っている他、日頃から声掛けをし、本人の希望を把握するよう努めている。	本人の希望に沿って、ドライブや買い物、散歩等に出掛けている。季節に応じた外出行事も計画され、柔軟な対応がされている。状況に応じて家族の協力を得て、積極的な外出支援がされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限りお金の管理をお願いしており、また、買い物の際は利用者様が自ら財布を出し支払えるように支援している。ご家族と利用者様の同意を得て、職員は紛失防止に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけることが出来ると利用者様には伝えている。また、手紙を書くことが出来ない利用者様には代筆をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下には季節感のある飾り、行事での写真を掲載。楽しく過ごした状況等伝えるケアに取り組んでいる。	一軒家を改築したユニットと新設のユニットがあり、それぞれ特徴ある空間になっている。リビングや廊下には季節感のある飾り付けがされ、壁面にはホームの行事の写真を飾り、回想する事で楽しい時間が蘇る様な工夫がされている。椅子等を随所に配置し、居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空いている椅子を利用いつでも自由に座ることが出来るように環境作りに取り組んでいる。別のユニットでも対応が出来るように職員間の情報の共有に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や仏壇、タンス等を持ってきていただいております、これまでの生活と同じように心地よい生活を送っていただくよう工夫している。	本人や家族と話し合いし、使い慣れた家具、布団、仏壇が持ち込まれており、壁面には家族との思い出の写真が飾られていたり、個別な空間となっており、本人が安心して過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は一人ひとりの身体機能を十分に把握し「出来ること」や「わかること」への配慮をしている。常に危険防止に向け、環境整備をしている。		